

|     |     |       |           |
|-----|-----|-------|-----------|
| 1 4 | 岡 崎 | 羽根小学校 | ニシムラ フミトシ |
|     |     |       | 氏名 西村 文利  |

|       |     |      |            |
|-------|-----|------|------------|
| 分科会番号 | 03a | 分科会名 | 社会科教育（小学校） |
|-------|-----|------|------------|

## 1 研究主題

「歴史をより多面的・多角的な視点で捉え、追究し続ける児童の育成」  
 ～6年「町人の文化と新しい学問 ～あなたは歴史の主人公！日本は開国した方がよいのだろうか～」  
 の実践を通して～

## 2 主題設定の理由

「インターネットで調べたら答えが分かるよ」こんな声は、今や当たり前となった現代。インターネットはもちろん、AIの発達によって、知りたいことを検索すると答えらしいものが分かるようになった。しかし、それでよいのだろうか。目の前の物事を様々な角度から見て、考えて、自分の意見を発信していく力が必要なのではないだろうか。

小学校社会科の教科目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」と示されている。

本学級の児童は、自分の意見を持ち、仲間の意見に傾聴して共感することができる児童が多い。歴史の授業では、人物とその出来事を歴史と捉え、興味をもって授業に参加している。歴史編の単元「縄文のむらから古墳のくにへ」の学習の振り返りでは、「弥生時代のむらは指導者がいるため、指導者が村を治めていた」と気づいた児童がいたことから、資料から社会の仕組みを読み取ることができたとと言える。さらに、話し合いを通して、「縄文時代は平和で、食べ物の種類がたくさんあるくらいだった。弥生時代は争いが増え、平等ではなくなってきた」という意見が交わされた。資料を根拠にして話し合うことで、時代の変化に注目し、食べ物や争いなど、多面的な視点で時代を捉える児童の姿が見られた。

そこで、児童らの社会科学習を通して高まってきた力をさらに高めることができるように、本学級の児童において、江戸時代後期の資料やゲストティーチャーを活用し、歴史的な事象を多面的・多角的な視点で捉えたり、老中、武士、百姓など立場を明確化した意見交流をしたりすることで、児童が主体的に課題を追究し続けることができるような授業展開を行う。

今回は、単元「町人の文化と新しい学問」を扱う。江戸時代後期の日本の様子を、文化面・経済面・政治面など多面的な視点で学習することができる。また、「開国」時の日本において、老中阿部正弘や勝海舟など、当時の人物に焦点を当てることで、多角的な視点で学習することができる。（※「開国」…日米和親条約と日米修好通商条約を結んで国を開いたことを指すこととする）当時の資料や横浜都市発展記念館の方の話を活用しながら、「日本は開国した方がよいのだろうか」と考える活動を通して、様々な社会的事象を追究し続けていってほしい。

## 3 目指す児童像

研究主題に迫るため、目指す児童像を以下のように設定した。

・歴史をより多面的・多角的に捉え、追究し続けることができる子

※「より多面的に捉え」は、学習の中で文化・経済面からある社会的事象を捉えている児童が、以下の手だてを通して新たに政治面からも捉える姿のことと定義する。

※「より多角的に捉え」は、学習の中で老中・武士の立場から社会的事象を捉えている児童が、以下の手だてを通して新たに百姓の立場からも捉える姿のことと定義する。

※「追究し続ける」は、学級で決めた追究課題を、資料を根拠にして調べたり、話し合ったりして追究し、「さらに〇〇を知りたい」、「△△について話し合いたい」という児童の姿のことと定義する。

## 4 研究の仮説と手だて

一人一人の児童が社会的な見方・考え方を働かせ、仲間と思考を深め合う力を育むことができるようにするために、以下のように仮説を立て、本実践を通して検証していくこととした。

### 【仮説1】

児童の思考から本単元を貫く追究課題を設定し、課題について立ち止まる場面を設け、話し合ったり、振り返ったりすることで、自ら課題を追究し続けることができるだろう。

### 【仮説1】に対する手だて

【手だてa】追究課題に対して立場を表し追究し続けることができるようにするための「開国メーター」

設定した本単元を貫く追究課題に対して、自分の立場を明確化・視覚化するために、「開国した方がよい」、「開国しない方がよい」の選択肢を、メーターに表す。自分だけでなく他者と立場の比較し、課題を追究し続けることができるように、授業支援クラウドや板書で、共有する。

### 【手だてb】 追究し続けることができるようにするための「開国 my voice」活動

本単元を貫く課題を追究し続けることができるように、「開国 my voice」活動は、本授業までに分かったことを整理して本単元を貫く追究課題に対して自分の意見を書き、チームや学級全体で、意見を伝え合い、深め合う活動を行う。

また、「開国 my voice」活動は4回行う。回数を重ねるごとに深まった意見を持ち、さらに知りたいことや話し合いたいことが生まれていくように、1回目は江戸時代中期までの学習・2回目は江戸時代後期の文化・経済・政治面の学習・3回目は江戸時代後期の老中・武士・百姓の立場の学習・4回目は開国後の日本の学習を根拠にして考える。

### 【手だてc】 どこまで追究したか整理し、次につなげるための振り返り

毎授業のまとめの時間に、自分の考えを整理し、次時につなげることができるように、各学習課題や本単元を貫く追究課題を振り返り、分かったことやできたこと、次に知りたいことを整理し、授業支援クラウドに書く時間を設ける。

#### 【仮説2】

江戸時代後期の資料や、ゲストティーチャー（横浜都市発展記念館の方）の話、「ヒストリーキャラクターカード」の活用などによって、より多面的・多角的な視点で、江戸時代後期の史実を捉え、自分の意見を構築することができるだろう。

### 【手だてd】 より多角的な視点で考えることができるようにするための「ヒストリーキャラクターカード」

より多角的な視点で考えることができるように、老中阿部正弘、幕臣勝海舟、横浜村の人々など、江戸時代後期の人々の立場を「ヒストリーキャラクターカード」として示す。それぞれのカードにはキーワードとなる言葉を記載し、それに関する資料を配付する（例 阿部正弘の場合、キーワードは「老中」や「諮問」など）。「この人物にとっては、開国した方がよいのだろうか」と問い、考える場面を設定する。

### 【手だてe】 より多面的な視点で考えることができるようにするための

#### 江戸時代後期の資料の提示やゲストティーチャー（横浜都市発展記念館の方）の活用

より多面的な視点で考えることができるように、江戸時代後期の資料を提示する。また、江戸時代後期の史実や、当時の横浜の様子を正しく、より多面的な視点で学習することができるように、横浜都市発展記念館の方の話を zoom で聞く場面を設定する。

#### 5 抽出児童Aの実態と願う姿

児童Aは、歴史の単元「貴族のくらし」では、当時の人々がどのようなくらしをしていたのか課題意識をもった。資料を正しく読み取り、貴族と庶民のくらしを食事や衣服など多面的に比較して、まとめることができた。だが、そこから連続して追究課題を見出す姿は見られなかった。本実践では、児童Aがより多面的・多角的に歴史事象を捉え、課題を追究し続ける力をもってほしいという願いをもって抽出児とした。

#### 6 単元計画

| 第○時<br>○時間                         | 学習課題・活動内容 ※「開国 my voice」活動                                                                                                                                                                           | ・教師の支援 「 」 発問 ●資料                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1時<br>1時間<br>出会う<br>(～第2<br>時まで)  | 江戸時代後期と明治時代前期の日本橋の様子はどのように違うのだろうか<br>・資料から、江戸時代後期と明治時代前期の日本橋の様子を比較し、気づいたことを伝え合う。                                                                                                                     | ●開国前と開国後の日本の違いが比較できるように、資料として、教科書 p 102・103「江戸時代後期と明治時代前期の日本橋の様子」を提示する。<br>・授業で分かったこと、次に知りたいことを振り返るために、授業支援クラウドに、毎時間振り返りを書く時間を設定する。                                                                                                      |
| 第2時<br>1時間                         | ペリーが来航し、どのように日本は変わっていったのだろうか<br>・ペリーが何の目的で日本に来たのか考え、資料から読み取る。                                                                                                                                        | ●ペリー来航時の日本の様子が分かるように、資料「金海奇観」「ペリーの肖像画」教科書 p104「ペリーの上陸」を提示する。<br>「ペリーは何の目的で日本に来たのだろうか」<br>●ペリーの来航目的に関する資料を提示する。                                                                                                                           |
| 第3時<br>1時間<br>追究する<br>(第12<br>時まで) | 日本は開国した方がよいのだろうか<br>・疑問や知りたいことから単元を貫く追究課題を決める。<br>日本は開国した方がよいのだろうか<br>※第1回「開国 my voice」活動を行う。<br>→ここでは立場を決定しておらず、資料をほとんど提示していないため、根拠のない意見で話し合う。<br>・学習課題に対してこれから根拠に基づいた意見をもって、解決に向かうために、何を知りたいか整理する。 | 「日本は、ペリーの要求にどうこたえたらいいのかな」<br>・児童の思考から、単元を貫く学習課題を児童とともに設定する。<br>「日本は開国してもいいのかな」<br>※第1回「開国 my voice」活動を行う。<br>①単元を貫く学習課題に迫ることができるように「開国メーター」を使用する。<br>②本授業までに分かったことを整理し、単元を貫く学習課題に対しての自分の意見を書く時間を設定する。<br>③チームや学級全体で、意見を伝え合い、深め合う時間を設定する。 |
| 第4時<br>1時間                         | 江戸時代後期に、どのような文化が流行したのだろうか<br>・歌舞伎や浮世絵、人形浄瑠璃について知る。                                                                                                                                                   | ●江戸時代後期の日本独自の文化が分かるように、資料として、教科書 p90～93を提示する。                                                                                                                                                                                            |
| 第5時<br>1時間                         | 江戸時代後期に、どのような学問が発達したのだろうか<br>・蘭学や医学、地理学、天文学について知る。                                                                                                                                                   | ●江戸時代後期の日本の学問について知るができるように、資料として、教科書 p94・95を提示する。                                                                                                                                                                                        |
| 第6時<br>1時間                         | 江戸時代後期の人々は、どのようなくらしをしていたのだろうか<br>・国学、百姓一揆や打ちこわしについて知る。                                                                                                                                               | ●江戸時代後期の日本の人々のくらしについて知るができるように、資料として、教科書 p90～95を提示する。<br>・江戸時代後期の日本の社会背景のよい点と問題点を区別して理解できるように、表に整理して板書する。<br>「この状況でペリーは来航した。日本は要求にどうこたえたらいいのかな」                                                                                          |

|                    |                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第7時<br>1時間         | 日本は開国した方がよいのだろうか<br>※第2回「開国 my voice」活動を行う。<br>・第4～6時で学習した「多面的な視点」から、意見を伝え合う。                                                     | ※単元を貫く学習課題に対して、多面的な視点で意見を伝え合うことができるように、第4～6時の学習を根拠にして、第2回「開国 my voice」活動を行う。<br>・次時からは、多角的な視点で思考を深めていくために、振り返りに、役人や商人などの視点で課題を追進していきたいと考えている児童を意図的指名し称賛する。                     |
| 第8時<br>1時間         | 江戸時代後期の人々は、「開国」についてどう考えていたのだろうか<br>・「ヒストリーキャラクターカード」活動を行う。                                                                        | ●江戸時代後期の様々な人の立場で、多角的に考えることができるように「ヒストリーキャラクターカード」活動を行う。                                                                                                                        |
| 第9時<br>1時間         | 日本は開国した方がよいのだろうか<br>・「ヒストリーキャラクターカード」を使い関係図に表す。<br>※第3回「開国 my voice」活動を行う。<br>・第8時で学習した「多角的な視点」から、意見を伝え合う。                        | ※単元を貫く学習課題に対して、多角的な視点で意見を伝え合うことができるように「ヒストリーキャラクターカード」の関係図をもとに、第3回「開国 my voice」活動を行う。<br>・自分が選択した立場とは違う立場の視点でも意見を考えることができるように、仲間の意見を参考にして、意見を再考した児童を意図的指名し、称賛する。               |
| 第10時<br>1時間        | 開国後、日本は外国とどのような関係を築いたのだろうか<br>・横浜都市発展記念館の方から、江戸時代後期、開国時の神奈川県の様子を聞く。<br>・1854年に日米和親条約を結んで開国し、1858年に日米修好通商条約を結んだことや、日米修好通商条約の内容を知る。 | 「開国後、日本は外国とどのような関係になったのかな」<br>●江戸時代後期や開国後の日本の様子を知ることができるように、横浜都市発展記念館の方（ゲストティーチャー）から、ZOOMで話を聞く。<br>●開国後の日本の様子を知るために、資料として、教科書 p104～109 を提示する。                                  |
| 第11時<br>1時間        | 日米修好通商条約により、日本はどのように変わっていったのだろうか<br>・日米修好通商条約を結んだ後、日本が大政奉還までどのように変化していったのかを知る。                                                    | ・日米修好通商条約による影響としてよかった点と問題点を区別して理解できるように、表に整理して板書する。<br>・日本と外国との関わりが増えたことによって日本が変化したことについて、日本と外国との交流によって、日本はどう変わったのかな」と問い、振り返りを書くように伝える。<br>・対立する意見を比較検討できるように、出された意見を整理して板書する。 |
| 第12時<br>1時間        | 日本は開国した方がよいのだろうか<br>・単元を貫く学習課題に立ち返る。<br>※第4回「開国 my voice」活動を行う。                                                                   | ※第4回「開国 my voice」活動を行う。<br>①単元全体の学習を通して学んだことを振り返り、幕府として当時の日本を総合的に考え、判断することができるように、「開国する」「開国しない」の2択にし、理由を考え、伝え合う時間を設定する。<br>②伝え合いを通して深まった意見を振り返り、書く時間を設定する。                     |
| 第13時<br>1時間<br>まとめ | 江戸時代後期の学習を通して何を学んだのだろうか<br>・江戸時代後期の学習を通して学んだことの中で、分かったことや知ったことをまとめる。                                                              | ・本単元での自分の意見の変化や深まりが自覚できるよう、今までの振り返りを見返してまとめをするよう伝える。                                                                                                                           |

## 7 授業実践

### (1) 江戸時代後期と明治時代前期の日本橋の様子はどのように違うのだろうか（第1時）

#### ペリーが来航し、日本はどのように変わっていったのだろうか（第2時）

第1時では、導入で江戸時代後期と明治時代前期の日本橋の様子が分かる資料を提示した【手だてe】。資料から読み取れたことを全体共有すると、自然に江戸時代後期と明治時代前期の日本橋の様子を比較して意見を伝え始めた（資料1）。刀ややり注目した児童がいたため、「それって平和なこと？」と問うと、様々なつぶやきが見られた。さらに、平和だと思う児童に理由を問うと、武器・お金・家など多面的な視点で理由を伝え合っていた。その後児童Aは「C6さんの意見に付け足して、家などが新しい文化なんじゃないかな」と、新しい文化が何らかの形で始まったことを示唆する発言をした。その後C8が「西洋文化が取り入れられた」と発言したことからも、児童Aの意見をもとにして深まった意見と言える。

振り返りで児童Aは「江戸時代後期と明治時代前期の違いに気づくことができた。次はなぜこんなに違うのか知りたい。この頃日本はどのような政治だったのか気になる」と問いをもったことから、単元への追究意欲を高めたと言える【手だてc】（資料2）。

第2時では、ペリー来航時の資料を提示し、日本はどう変わっていったのかを考えた【手だてe】。「ペリーがわざわざ遠い日本まで来たのは、理由があったんじゃないかな」という意見が出たため、来航理由として①日本と通商したい②石炭（燃料）が欲しいからだだったということをさらなる資料を活用しおさえた【手だてe】。また、当時の諸外国同士の関係をおさえるために、アヘン戦争についての資料を提示した。振り返りで児童Aは、「この後ペリーの影響で日本の情勢はどうなっていくのか知りたい。外国とどう関わっていくのか気になる」と次時への意欲をもっていた（資料3）。

### (2) 日本は開国した方がよいのだろうか（第3時）

T : 資料から何が読み取れたかな。  
C1 : どちらも人を運んでいるけれど、明治は馬車だ。  
C2 : 江戸は家の中が見えるけれど、明治は見えない。  
C3 : 江戸は刀ややりをもっている。明治はもっていない。  
T : それって平和なことかな。平和だと思う人？  
学級 : (12人挙手)  
T : なぜそう思ったの。  
C4 : 武器が無いから。  
C5 : お金はあるから？  
C6 : 家が大きくなっているから。  
児童A : C6さんの意見に付け足して、家などが新しい文化なんじゃないかな。  
学級 : たしかに（うなずく児童が多い）。  
C7 : でもさ…  
T : どうしたの。  
C7 : 武器を誰から取り上げられたんじゃないの。  
C8 : 取り上げられたというより西洋文化が取り入れられたと思う。

資料1 児童Aが発言した際の、学級全体での共有の様子

振り返る 分かったこと できたこと 次を知りたいこと

江戸時代後期と明治時代前期の違いに気づくことができた。次はなぜこんなに違うのか知りたい。この頃日本はどのような政治だったのか気になる。

資料2 第1時の児童Aの振り返り

振り返る 分かったこと できたこと 次を知りたいこと

日本が鎖国から抜け出した理由がわかった。この後ペリーの影響で日本の情勢はどうなっていくのか知りたい。外国とどう関わっていくのか気になる。

資料3 第2時の児童Aの振り返り

第3時では、疑問や知りたいことから、本単元を貫く課題を決めることとした。「キリスト教がどう広まったのか知りたい」、「和の文化から西洋の文化になっていったと思うから、開国したのではないかな」、「開国して、日本からも得になる貿易をした方がよいのではないかな」など根拠となる資料が少ないながらも、これまでの学習をもとに、日本の外国との関わりについて追究したい意見が挙がった。そこから開国した方がよいのかという決断に話し合いの焦点が当たり、本単元を貫く追究課題「日本は開国した方がよいのだろうか」に決まった。

ここで、第1回「開国 my voice」活動を行うこととした【手だてb】。また、今、開国した方がよいか「開国メーター」に表し、その理由を書いた【手だてa】。その後チームや全体で意見を伝え合った。この時点では、江戸時代中期までの学習を根拠とした話し合いとなった。

チーム学習中、児童Aは仲間の意見を傾聴した後、「私は「開国した方がよい」に70%だなあ。文化に多様性が出るからね」と伝えた(資料4・5)。また、「キリスト教」、「政治的な駆け引き」「貿易(記述中)」など様々な側面から「開国した方がよいか」考え、意見を伝え合っていた。全体共有では、「開国メーター」に自分の意思表示をした【手だてa】。「開国した方がよい」が8人、「どちらか迷っている」が4人、「開国しない方がよい」が14人だった。「開国した方がよい」立場の意見が「開国したことによって利益が生まれて住みやすくなるんじゃない」と言ったのに対し、「どちらか迷っている」、「開国しない方がよい」立場の意見は「鎖国してきたのに」、「キリスト教が広まる」、「混乱する」などの意見が出た。

振り返りで児童Aは、「日本は開国した方がよいのかについて自分の意見を整理することができた。開国した後日本はどうなっていったのか知りたい。キリスト教はどうなったのか気になる」と記述した【手だてc】。

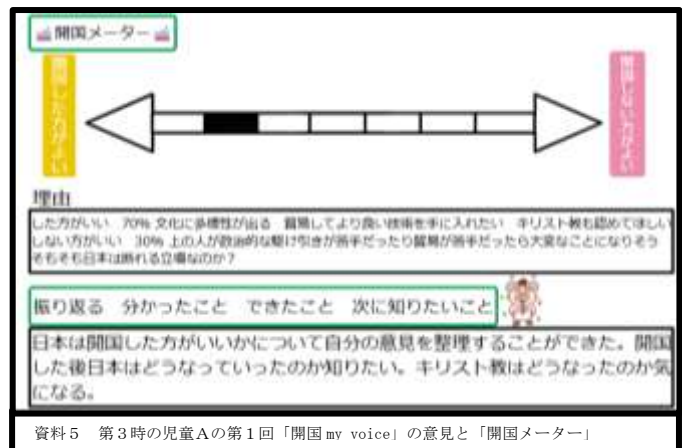
### (3) 日本は開国した方がよいのだろうか(第7時)

第4～6時では、江戸時代後期の学習を行った。文化や学問、くらしの様子を、教科書の資料を活用して調べ、理解していった【手だてe】。そのまとめとして、江戸時代後期の日本の良い点と問題点を整理した。児童Aは、教科書やこれまでの資料を何度も見返し、「歌舞伎や浮世絵などの文化が生まれた(良い点)。新しい学問を学ぶ人の中からも幕府や藩を批判する人が出てきた(問題点)。」と記述する様子が見られた。

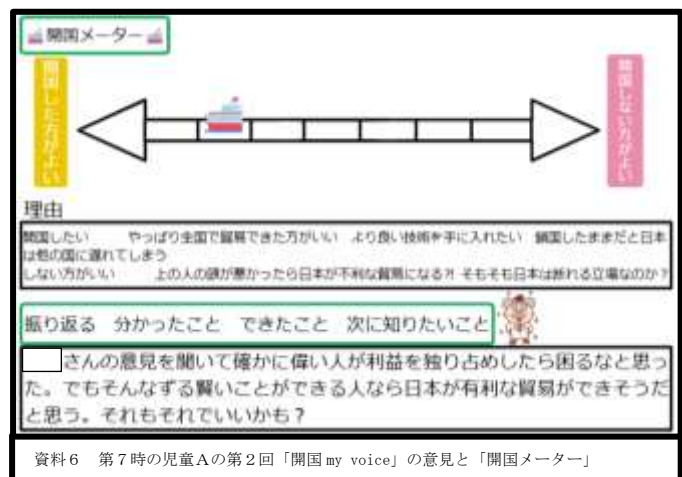
第7時では、第2回「開国 my voice」活動を行うこととした【手だてb】。第4～6時の学習を振り返ったうえで、追究課題についての考えを話し合うこととした。「開国メーター」に自分の意思表示をした結果(資料6)、「開国した方がよい」の立場が8人、「どちらか迷っている」の立場が6人、「開国しない方がよい」の立場が12人だった【手だてa】(資料7)。児童Aの「開国メーター」の位置は変わらず「開国した方がよい」側だった。しかし理由は、「やっぱり全国で貿易できた方がよい。よりよい技術を手に入れたい。鎖国したままだと日本は他の国に遅れてしまう」など第1回「開国 my voice」活動より多面的な視点で意見を考えることができた。また、「開国しない方がよい」とも考え続けており、理由は前

T : 開国した方がよい、そしてその理由についてチームで伝え合います。  
C1 : 私まだ分からないから真ん中。身分の低い人は偉い人に従わないといけないけれど、キリスト教の教えが入ってきたらみんな平等になる。  
C2 : たしかに。私もそう思う。身分の低い人は、着たいものとかも制限されていると思うから、だからこそ海外のものとかを身につけたいのかなと思った。  
C1 : そうだね。服もいいもの着たいしね。  
C2 : そうそう。  
児童A : 私は、「開国した方がよい」が70%だなあ。文化に多様性が出るからね。  
C3 : 多様性って？  
児童A : んー、いろいろな種類ってことかな。  
C3 : なるほど。  
児童A : あとは、キリスト教側も認めてほしいだろうし。けど、「開国しない方がよい」に30%なのは、政治的な駆け引きが苦手だったら大変なことになりそうだから。  
C1 : 大変って？  
児童A : んー、戦争とか？  
C3 : 日本負けそうだね。

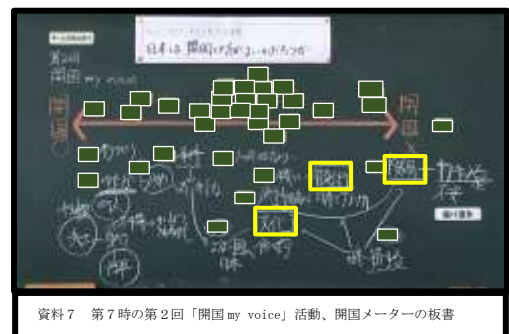
資料4 児童Aのチーム学習の様子



資料5 第3時の児童Aの第1回「開国 my voice」の意見と「開国メーター」



資料6 第7時の児童Aの第2回「開国 my voice」の意見と「開国メーター」



資料7 第7時の第2回「開国 my voice」活動、開国メーターの板書

回と同じだった。話し合いでは、文化や技術、貿易などの視点が中心にあった。前回に比べてより多面的な視点で話し合うことができたと分かる。また、「開国した方がよい」側の意見で、「開国したらゆたかになると思う」とある児童が発言し、「だれがゆたかになると思う？」と問い返すと町人や武士、将軍など様々な身分が出てきたため立場にも焦点を当てることとした。

振り返りで児童Aは、「C1さん（資料4の児童と同一人物）の意見を聞いて、確かに偉い人が利益を独り占めしたら困るなどと思った。でもそんなずる賢いことができる人なら日本が有利な貿易ができそうだと思う。それもそれでいいかも？」と記述した【手だてc】。話し合いを通して、仲間の意見から、利益という視点から、貿易にも焦点を当てることができた。

#### (4) 江戸時代後期の人々は、「開国」についてどう考えていたのだろう（第8時）

第8時の導入で、前時に立場に焦点が当たったことを取り上げ、江戸時代後期の人々が「開国」についてどう考えていたか見つめることができるように、「ヒストリーキャラクターカード」を提示した【手だてd】。①開国を迫られた時の老中 阿部正弘②幕臣 勝海舟③百姓の3つの立場を取り上げ、それぞれのチームにカードと立場ごとの資料を提示し、立場同士の関係性を話し合う時間を設けた【手だてe】。児童Aは、「重い年貢をとられていたから不満があった。しかも当時、幕府の力は弱まっていたと書いてあったから、阿部正弘は力づくで鎮圧できない」と資料を根拠に伝えていた。また、阿部正弘が台場を建設したと分かる資料を読み取ったC2（資料1と同一人物）が、「有事の際には海上で黒船を撃退できるようにしたいんだ。だから、もしペリーと戦争をしてもかまわないくらいの態度だね」と伝えていた。

#### (5) 日本は開国した方がよいのだろうか（第9時）

第9時では、第3回「開国 my voice」活動を行った【手だてb】。「ヒストリーキャラクターカード」を活用し、立場を意識したうえで、追究課題についての考えを話し合った【手だてd】。意見を記述した後、「開国メーター」に自分の意思表示をした【手だてa】。「開国した方がよい」が4人、「どちらか迷っている」が11人、「開国しない方がよい」が12人だった。全体共有で、児童Aは阿部正弘に注目し、「アメリカに不利な条約を結ばされるかもしれない」と、「開国した方がよい」側の意見でありながらも、このような懸念点について発言した。「そこから阿部正弘は何をしたのかな」と問うと、阿部正弘が家来に「開国」についての意見を求め、勝海舟が意見書を提出したと発言した児童もいた。

振り返りで児童Aは、「いろいろな立場から見るとめちやくちや迷う」と記述した（資料8）。話し合いを通して、多角的な視点で「開国」を捉えているからこその発言だ【手だてc】。

#### (6) 開国後、日本は外国とどのような関係を築いたのだろうか（第10時）

第10時では、導入で日本は1854年に日米和親条約を結んで開国し、1858年に日米修好通商条約を締結したことを児童に伝えた。そこから、「その後どうなっていったのかな」、「どんな条約だったのかな」と疑問が生まれたため、江戸時代後期、開国時の日本や神奈川県の様子を正しく知るために、横浜都市発展記念館の柏木様にzoomで話を聞いた【手だてe】。ここでは、ペリーが来航時、日本に蒸気機関車を献上したことや、開国後の生麦事件など、よりくわしく日本の様子を教えていただいた。

#### (7) 日本は開国した方がよいのだろうか（第12時）

第11時で、日米修好通商条約の内容についておさえたうえで、第12時では、導入で、児童Aの第11時の振り返りを全体共有した。「開国した方がよかったのか？まだ迷う」【手だてc】

（資料9）という児童Aの発言に対し、「政治の仕方が気になる。結局開国してよかったのかな」と他の児童が発言したことから、第4回「開国 my voice」活動を行うこととした【手だてb】。また、「未来のことを知ったうえで考えてもよいのか」と児童Aのチームの児童がつぶやいたのに対し、児童Aは「いいんじゃない」と応えていたことから、全体共有し、未来も知ったうえで考えてよいこととして共通認識した。ただ、今回は、老中阿部正弘の立場にたち、「開国する」、「開国しない」のどちらかを判断しなければいけないこととした【手だてd】。

展開で、意見を記述した後、立場を聞くと「開国する」が10人、「開国しない」が16人だった。その後、理由をチームで話し合った。チーム学習中児童Aは、「不利な条約を結んでしまうから開国しない」

と考えていたが、チームでC 2が、「不満がたまる」と発言したことや、教師が、「条約を結ぶことって悪いことばかり？」と発問したことに対してC 2が、「日本を守ってくれるんじゃない」とつぶやいたことから、児童Aは、「開国したうえで不利な条約を結ばなければいい」と発言した(資料10)。振り返りで、児童Aは、「いろいろな意見を聞いたけど、やっぱり意見は変わらなかった」と発言した【手だてc】。

## 8 仮説の検証

【仮説1】に対する手だて

【手だてa】追究課題に対して立場を表し追究し続けることができるようにするための「開国メーター」

資料5・6のように、メーターを活用することで、児童Aは、意見が「開国した方がよい」側に寄っているけれど「開国しない方がよい」側の思いも少し加味しているというあいまいな意見も表すことができた。資料7のように、メーターの位置が、変化していったことが分かる。さらに、資料7・8のように板書を活用し、「開国メーター」を全体共有することで児童Aは、自分の立場を表すことができた。しかし、これを活用し、追究し続けたのかは疑問が残るため、【手だてa】は十分な有効性があったとは言えない。

【手だてb】追究し続けることができるようにするための「開国my voice」活動

資料4のように、第1回の話し合いでは、チーム学習で児童Aは自分の意見を伝えた。さらにC 1が、「んー、戦争とか？」と質問することにつながっている。気になった言葉についてチームの仲間と話し合い、考える姿から、追究し続けることができたと言える。また、資料7のように、第2回では、文化や技術、貿易などの視点が中心に挙がるとともに、町人や武士、将軍など身分の視点が挙がることにつながった。話し合いを通して、自分にはない視点に注目し、追究し続けることができたと言える。以上から、【手だてb】は有効であったと言えるだろう。

【手だてc】どこまで追究したか整理し、次につなげるための振り返り

資料2・3・5・6・9から、毎時分かったことを整理し、次に知りたいことを考えることができた。本単元を貫く追究課題について、満足することなく、さらに考えたいという児童が多かったことから、【手だてc】は有効であったと言えるだろう。しかし、整理する時間が少ない場面があった。個人で時間を確保し、整理することで、追究したいことをより明確化することができたであろう。

【仮説2】に対する手だて

【手だてd】より多角的な視点で考えることができるようにするための「ヒストリーキャラクターカード」

第7時の児童の意見からつなげて、第8時の資料8のように、老中阿部正弘・勝海舟・百姓という立場について注目することができた。「ヒストリーキャラクターカード」を活用して関係図に表す活動を通して、立場ごとの「開国」についてどう思っているか考えるきっかけとなった。また、資料8のように、児童Aは、「いろいろな立場から見るとめっちゃくちゃ迷う」と記述した。百姓・武士など新たな視点が加わったからこそ、決めきれなかったと言える。よって、【手だてd】は有効であったと言えるだろう。

【手だてe】より多面的な視点で考えることができるようにするための

江戸時代後期の資料の提示やゲストティーチャー（横浜都市発展記念館の方）の活用

第1・2時のように、江戸時代後期と明治時代前期の日本橋の資料や、ペリー来航時の要求が書かれた文章・アヘン戦争の資料を提示し、学級の児童は、「キリスト教について知りたい」、「当時の日本の身分やくらしを知りたい」、「アメリカや、それ以外の国とも関係を築くのか知りたい」などの疑問が生まれた。第4時は、当時の浮世絵の資料から、学級の児童は、「浮世絵は当時の食や服装などの人々の様子を表している」と読み取った。宗教やくらし、食など多面的な視点で、日本を捉えることができたと言える。

また、横浜都市発展記念館の柏木様をゲストティーチャーとして授業を行うことで、江戸時代後期の日本について正しい知識を学び直し、ペリーが日本に贈った蒸気機関車の資料や、攘夷事件の資料など、新たな知識を獲得することにもつながった。しかし、ゲストティーチャーの授業内容が難しく、「攘夷」の意味や生麦事件など、江戸時代後期の出来事を正しく捉えられない児童もいた。さらに、「より多面的」な視点で捉えることができたかは疑問が残る。よって、【手だてe】は一部有効であったと言えるだろう。

## 9 終わりに

第13時では、江戸時代後期の学習を通して分かったことをまとめる活動を行った。児童Aは、「鎖国中の文化の発展もよかったと思う。でも、鎖国に少し似た状態の平安時代も永遠には続かなかったし、新たな文化や技術も取り入れた方が良く思うから、開国した方が良く思う」と記述し、単元の学びを終えた【手だてc】。そこには、既習事項である平安時代と江戸時代後期を比較し、文化や技術という多面的な視点にこだわって学びを進めてきた児童Aなりの答えが垣間見えた。これからも、児童Aのように、歴史的な事象を様々な面から捉え、追究し続ける力を育てていくことができるような研究を続けていきたい。

児童A：不利な条約を結んでしまうから、開国しない。  
C 1：死んじゃうもん。開国しない方がいいよ。  
C 2：日本は不利なことが多いよ。開国ってアメリカだけ来るようになるわけじゃないし。金も外国に流れちゃう。百姓も不満がたまる。  
省略 全体共有へ  
C 2：不利な条約で不満がたまると思う。  
C 1：だから打ちこわしが増える。人が死ぬ。だから開国しない。  
T：どの国と条約を結ぶかC 4（児童Aと違うチーム）さん、調べていたよね。  
C 4：イギリスやオランダ、ロシアです。  
T：条約を結ぶことって悪いことばかり？  
C 2：日本を守ってくれるんじゃない（つぶやき）。  
児童A：開国したうえで不利な条約を結ばなければいい。  
T：じゃあ結ばなくていいんじゃない？  
C 5：でも、仲良くするための条約なんじゃないの。  
C 6：けんかをまねく可能性がある。  
C 7：物価高だし、日本のものが売れない、買えないのは困る。

資料10 児童Aの全体での意見交換の様子